1976年2月25日 第3種郵便物認可（毎週4回月・火・木・金曜発行）2026年1月13日発行SSKO通巻12095号「おあしす通信」2026年1月号

SSKO おあしす通信

2025年度
第2号

Since 1983

編集　キープハート（おあしすの事業を支える市民の会）

スポーツ交流会を開催！（くわしくは2、3ページ）

社会福祉法人
おあしす福祉会

〒136-0076　東京都江東区南砂3-4-6
TEL：03-5690-5959
http://www.oasisfukushi.or.jp/

就労継続支援B型／就労定着支援事業所
■オアシス・プラス　〒135-0021　東京都江東区白河4-7-2　TEL 03-5646-7811
就労継続支援B型事業所
■コム・オアシス　〒136-0076　東京都江東区南砂3-4-6　TEL 03-5690-5959
■ピアワーク・オアシス　〒135-0001　東京都江東区毛利1-7-3　TEL 03-5638-1775
地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助
■ウィル・オアシス　〒135-0002　東京都江東区住吉1-17-20住吉ビル4階　TEL 03-6284-0545
共同生活援助事業（グループホーム）
■第2クローバーハウス
おあしす利用者家族の会「杏の会」
公益事業
■住宅確保要配慮者居住支援法人（居住支援法人）
〒136-0073　東京都江東区北砂1-5-20東陽町ダイヤモンドパレス2階204　TEL 070-6435-5374

社会福祉法人 おあしす福祉会

2025年度 交流会

2025年12月5日に江東区文化センターでおあしす福祉会全体での交流会を開催しました。

コロナ禍で行事ができない期間が長くありましたが、今回の交流会は数年ぶりにみなさんと飲食も含めた形で開催することができました。

交流会は４種類のスポーツ（ボッチャ、ユニカール、競技用輪投げ、ビーンボーリング）を実施。事業所ごとに３人ほどでチームを組み、各スポーツを好きな所からまわって対戦し、それぞれ得点をチームごとに競いました。チーム名もそれぞれの特色がわかるユニークなものが多く会場を和ませました。

スタート前に練習時間も多くとり、みなさん笑顔を見せながらも真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。久しぶりの法人全体行事に対して多くの利用者から寄せられた声を以下に紹介します。

～交流会に参加した利用者の声～

ボッチャ

●チーム名（ラーメン）がうまいこと決められた。ユニカールがとても新鮮だった。

●同じチームの方のスーパープレイをみることができた。

●ユニカール、久しぶりだったけど楽しかった。ちょっと腰が痛かったけど、今は大丈夫。

●ユニカールでほんの僅かでしたが活躍はできました。交流はそこそこできました。初めてでしたが上手くいって良かったです。

●輪投げで高得点が取れた。ユニカール難しかった。コム・オアシスのチームで1位と2位になったので最強だった。

●ユニカール、色々と作戦を立てて戦い勝つことができて良かったです。

●楽しく参加できた。輪投げが入らないこともあり難しかった。ユニカールは難しかった。

●ボーリングでストライクが出て楽しかった。輪投げで真ん中に入った。次があったらまた頑張りたい。

●ユニカールは難しかった。自分が投げて勝ったゲームがあってよかった。

●ユニカールのストーンが重くて難しかった。投げた時に転んでしまった。

●人一倍練習して、ボッチャで負けたのが悔しかったけど、その悔しさも楽しめる交流会だったと思います。

ユニカール

●楽しかった！コロナ禍以降、他の事業所の方と会えていなかった。顔見知りのひとたちに話しかけることができた。

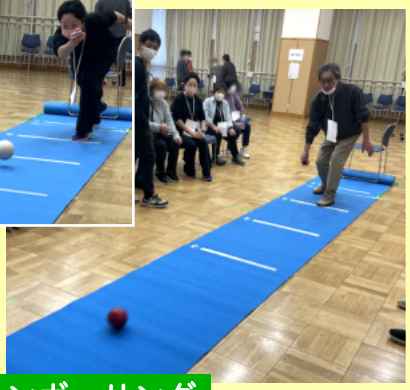
●すてきな交流会をありがとうございました。他の事業所の人とも話せてよかった。

●職員さんや仲間とメッチャ楽しい交流会になり素晴らしかったです。おあしすの輪、烈火の如く広がることを祈ってます。

●勝つべくして勝つ　常勝

●BGMが大好きなビートルズだったのでテンションがバク上がりだった。それぞれのゲームが楽しくて、時間が経つのが本当に早かった。

●参加してとても良かった。お弁当は量より質という感じ、美味しかったけどもっと食べたかった。100点満点中101点！みんなとの交流もできてよかった！言うことなし。あとは前のような忘年会もやってみたい。



ビーンボーリング

競技用輪投げ

スポーツの後は、日本橋の有名店の「天丼弁当」を頂きながらの交流。これを楽しみにしていた方も多く、みなさん一貫して「お弁当が美味しかった！」という感想をいただきました。

自分の通っている事業所以外の利用者と関わる機会も減っていることから、今回のように日々の作業以外のところで、みんなで身体を動かしながら、交流の機会を持てて、嬉しく思いました。また、感染症対策を意識しながらでしたが、みんなでテーブルを囲んで美味しいお弁当がいただけたのもよかったです。

参加した利用者と職員合わせて50名ほど集まり、みんなも真剣に打ち込めたスポーツに、お弁当も好評で、ケガもなく大盛況に終わりました。

所要時間も4時間でしたがあっという間で、事業所内では見られないような、みんなの笑顔を見ることができ、とてもあたたかい交流会になりました。

働くだけでなく、楽しむこと、仲間がいると思える機会は心の病の回復に大きく役立ちます。感染症対策はしっかりしながらも、このような機会を今後はもっと取り戻していきたいです。　（川口チエ）

2025年度 特別販売活動のご報告

おあしす福祉会では、毎年夏と冬に特別販売活動を行っています。この活動で得た利益は、利用者の働く機会と工賃の確保の他、被災地支援活動の資金捻出・地域貢献活動・その他法人が行う地域に必要とされる活動の資金として活用させていただきます。今年もたくさんのご支援ご協力をいただきありがとうございました。

夏の特別販売活動　売上
1,149,817円

冬の特別販売活動　売上
1,361,786円

深川と豊洲がアートであふれた17日間

～今年もおあしすは「アートパラ深川」に協力しました～

今年で６回目となる障害者アートの市民芸術祭「アートパラ深川おしゃべりな芸術祭」に、今年もおあしす福祉会は参加協力しました。

具体的には街なかに展示されるアートの額装と額の清掃作業受託、缶バッジの製造受託、アート絵馬の作成、歩行者天国イベントへのブース出店、法人職員１名による実行委員としての参加です。特に今年は実行委員として参加した私が、一般住民である実行委員向けに「江東区の障害者福祉の現状」についてお話しさせていただいたり、昨年の大賞アーティストさんのトークショーに「福祉施設の立場から」ということで登壇させていただいたりしました。

毎年、イベント期間だけでなく、準備～撤収後まで実行委員として多くの人々と協働していますが、その際に私からおあしす福祉会について、あるいは就労や生産活動についておしゃべりする機会がたくさんあります。そのご縁がひろがって、今年も新しい作業受注のお話をいただいたり、就職や実習の機会をいただいたりしています。

アートパラ深川の活動は、アートを通じて、障害のあるアーティストの活躍の機会を作るだけで無く、江東区内の障がいのある方々の活躍の機会にもつながっています。今後もアーティストにとっても、アートパラ深川にとっても、おあしす福祉会にとっても、良いつながりが続いていくよう、参加・協力をしていきたいと思います。2026年は全国公募展の年です。絵を描くのが好きな方、応募してみてはいかがでしょうか。（友田奈津美）

▲「おあしす」が作成した絵馬

▲ピアワーク・オアシスで公式グッズの缶バッジの製造を請け負いました

100食のお弁当を販売する機会をいただきました

～ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ様～

2025年12月15日に九段下にある「ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ」様（以下J&J）にて、初めてオアシス・プラスのお弁当の販売機会をいただきました。これはJ&J様が社会貢献活動の一環として、フィリピンの豪雨災害に対するチャリティイベントを実施するとのことで、そこにオアシス・プラスのお弁当を販売するブースを設けてくださったというものです。

初めてお問い合わせいただいた時には、とても有名な企業様であることと、「100食」という数の多さに大変驚きましたが、多くの福祉施設の中から当事業所を見つけてくださったことに感謝し、出店させていただくことにしました。当日は利用者も職員もいつもより早い時間から出勤して、３種類のお弁当を心を込めて作りました。初めて当事業所のお弁当を食べる方ばかりですから、一人でも多くの方に「おいしかった！」と言っていただけるようにと、利用者全員頑張りました。

販売の際には、J&Jの社員の皆様にたくさんサポートもしていただき、無事に100食完売することができました。またチャリティの募金箱に売上の一部を入れさせていただきました。

初めての場所で、初めて出会う人々に自分たちの作ったお弁当をお届けして喜んでいただく機会は、利用者の自信回復や働きがいの向上にとても役立ちます。また、お弁当の売上は利用者の工賃向上につながります。実際に販売した利用者からは「こんなにたくさんの人に買ってもらえて、今日はいつもより"働いた！"って感じがする。」と、充実した時間を過ごせた感想も届いています。このような機会をいただけることは本当にありがたいですし、活躍する利用者の姿を目に出来ることが何よりもうれしいです。今後もこのご縁をつないでいけるよう、さらなる努力を続けたいと思います。今回、お問い合わせから当日の対応まで、同社のJAPAN COMMUNITY IMPACTの石川様にご対応いただきました。この場を借りて感謝御礼申し上げます。（友田奈津美）

自分だけの木のおもちゃをつくろう！

～端材でつくる木のおもちゃワークショップを開催～

2025年7月20日（日）に開催された「深川体験わーるど」は、江東区深川地区の職人さんたちが教えてくれる染物建具といった伝統工芸体験、紙切りや太神楽などの大衆芸能が楽しめる、“和”と“もの作りや”がテーマのイベントです。

今回主催の森下文化センター様より「公共施設として、障害のある人の活躍の機会づくりに貢献したい」というお話をいただき、おあしすは木のおもちゃ作りのワークショップで参加させていただきました。

大事なのは想像力。

今回のワークショップは「木のおもちゃのお店　おあしす」の木工製品のパーツを切り出す際に出る様々な形の端材を木工用ボンドで組み合わせて、オリジナルの木のおもちゃを作ってもらおうというものだ。他の参加者と譲り合ってくれれば時間制限はなし、用意した端材はどれを使ってもOK。好きな形を作ってもらう。

10時の開始とともにあっという間に席が埋まり、子どもたちがおもちゃ作りを開始した。すぐに材料を選び終えて、ボンドで接着を始める子もいれば、カゴを片手にどのパーツを使うか、動かずじっくり考え続ける子もいる。おあしすの木工事業に参加している利用者たちが、今日はスタッフとしておもちゃ作りを見守りつつ、お手伝いと指導者役を務めている。

天才、現る！

子どもたちが席につくと、さっきまで単なる端材だったものが、彼らの手でみるみる形を成していく。

ある男の子は見事なロボットを作り上げた。しかし、まだ完成ではないらしい。小さい部品を貼り合わせて何やら作っている。しばらくしてその部品がロボットの体に付けられた。

ギターだ！ロボットがギターを弾いている。

天才だ。間違いなく天才。しかもギターは左構え。思わず聞いた。

「ジミヘン！？」

男の子の返事はなかった。

（筆者注：ジミ・ヘンドリックスは1960年代に活躍した左利きの天才ロックギタリスト）

向かいの先では女の子がマーカーで一心不乱に部品を緑色に塗っている。

これは？何を作って・・・

「枝豆。」

聞き終わらないうちに答えが返ってきた。枝豆！たしかに枝豆だ。そして、その枝豆はそのまま人形の腕になった。腕が枝豆の人形。ここにも天才がいた。

いつもは「利用者」、今日は「支援者」

4時間のワークショップで集まった子どもたちは、なんと34組！大変申し訳ないことに、既に席が埋まってしまい参加をあきらめた方もいたほどの大盛況だった。

スタッフとして参加したおあしす利用者たちは、備品の準備、空いている席への案内などをしながら、どんなおもちゃを作るか迷っている子どもたちにアドバイスをするなどの大活躍を見せた。子どもたちの豊かな発想力に驚き、目を輝かせ、終了後は「整理券を発行した方が案内がうまくいくのではないか？」「袋は大きめのものをもっと用意しておいた方がよかった」など、次回のワークショップ開催に向けての改善策を出してくれた。

今回のように事業所の外に出て、地域の方々と交流すると、利用者たちはいつも以上に頼もしい姿を見せてくれることがある。それは「利用者」という立場から離れ、誰かのために自分の役割をもって行動する「支援者」になれるからだと思う。そして、それは障害からの回復に向けての自信を培う大きな一歩でもある。このような活動をこれからも続けていきたい。

（武藤康司）

寄付のお願い

利用者へのより良い支援施設設備の充実、今後の地域における活動のさらなる充実のために、多くの資金が必要です。皆さまからのあたたかいご支援をお待ちしております。

郵便振替によるご寄付の場合
加入者名　おあしす福祉会
口座番号　00100　8　番号　82367
通信欄に「寄付」と明記のうえ、お申し込みください

おあしす福祉会への寄付についてはこちら➡

必要なのは"排除"ではなく、理解して支え合うこと

～難民・移民フェスに参加しました～

2025年5月10日　練馬区の平成つつじ公園で「難民・移民フェス」が開催されました。2022年6月から続くこのフェスは、物販やワークショップ、ステージでのトークや演奏などがおこなわれます。そこは、さまざまなルーツを持つ難民や移民の人々が社会とつながる機会となっていて、来場者たちは交流を楽しみながら、その背景を知る場にもなっています。

ピアワーク・オアシスの木工事業部は、このフェスに2024年7月から木のおもちゃの提供という形で参加している。これは、様々な事情で海外から日本に逃れてきた人が、生活に困窮していることを知ったのがきっかけだ。利用者と話し合い、「自分たちが作ったおもちゃを役立ててもらおう」という結論に達した。そこで生活困窮者や難民の支援に取り組んでいる団体「東京つくろいファンド」に連絡、自分たちが製作した木のおもちゃを提供し、売上を難民たちの支援に役立ててもらうことにした。

おもちゃの提供にあたっては、東京つくろいファンドのスタッフ　武石晶子さんに来ていただき、フェスに提供するおもちゃを選んでもらうとともに、母国での戦争や迫害を逃れ日本で生活する人たちの現状について話をしてもらった。そして、日本では難民の申請をしてもその多くが認められないこと、難民としての認定が受けられず就労が許されないなど、様々な制約を受け、不自由な生活を強いられている「仮放免者」という立場の人が多くいることを学んだ。

フェス当日、あいにくの悪天候にもかかわらず会場内にはミャンマー、チリ、クルド、アフリカの国々などの食べ物や小物が販売ブースに並び、様々なルーツを持つ参加者の笑顔と明るい声が溢れ、大変な賑わいを見せていた。ステージでは楽曲の演奏がおこなわれるとともに、難民や仮放免者が不安定な状況での生活を余儀なくされている現状が語られた。

東京つくろいファンドのブースではアフリカの布を使ったシュシュやヘアゴムと一緒に、フェス用にアフリカの布をあしらった特別バージョンのおあしすの木のおもちゃが並び、多くのお客様にお買い上げいただいた。

2025年の夏の参議院議員選挙では在留外国人に関する政策が論点にあげる政党や候補者が注目され、「日本人ファースト」という言葉が話題になった。政府は「外国人との共生社会の実現」をうたいながら、一方では外国人による税や保険料の未納問題への対応、永住権や帰化要件の厳格化などに着手している。

しかし、SNS などで広まった「外国人が日本の治安を乱している」という話のほとんどは事実ではないことが判明している。歴史を振り返ると、社会が不安定になった時、弱い立場にいる人たちが攻撃や差別、排除の対象とされてきた。そしてそれは外国人や障害者、女性や子どもたちだった。

私たちは経済の低迷、物価高騰、国際関係の悪化といった暮らしへの不安を「外国人問題」という違うものに安易に置き換えていないだろうか。一見異質に見えるものを排除し、それを繰り返した先にあるのは「衰退」ではないか。同じ地域社会に暮らす者として理解を試み、支え合うことはできないのか。

「障害があっても、障害がなくても、一人ひとりが社会の成員として認められ、かけがえのない役割や希望を持ち、誰もが自己実現を目指せる地域社会をつくっていく」これは当法人の理念だ。その実現には困難があるとしても、災害や戦争、迫害から逃れてきた人を、国籍や民族の違いによって排除することがあってはならないと私は考える。

▲アフリカの布をあしらったおあしすの木のおもちゃ

いつの間にか雨が止んだフェスの会場で様々な国の人（もちろん日本人もいる）が楽しそうに歌い、踊る笑顔を見ながらそんなことを思った。　（武藤康司）

個別支援の課題から地域課題への取り組みの実践

～相談支援専門員の現場から～

私は、地域活動支援センターウィル・オアシスで主任相談支援専門員として日々活動しています。相談支援専門員は、サービスを利用する方々のサービス等利用計画の作成やモニタリング（定期的な計画の見直し等）、また、長期に渡り精神科病院に入院中の方々の退院支援など、多岐に渡る支援を行っています。

そうした活動の中で、大事な視点があります。それは、利用者はこの地域で暮らす住人であり、利用者一人ひとりのニーズは、地域のニーズでもあるということです。言い換えれば、その人のニーズが満たされなかった場合、そこには地域の課題が存在するという視点です。相談支援専門員には、個別支援の課題から地域課題に取り組む役割もあるわけです。今回は、そのような視点から実際に行政への要望が形になった事例をご紹介します。

私が担当しているAさんは、生活保護を受給しており、金銭管理に課題を持っていました。これまでは、福祉事務所が1週間ごとに保護費を分割して渡すなどの方法をとってきたことで、Ａさんは安定した生活を送っていました。

しかし、突然、福祉事務所では金銭管理をおこなわないということになり、そこからＡさんの生活は大きく崩れてしまいました。２週間で保護費を使い尽くし、かなり生活が困窮した状態になってしまいました。こうした状況から早急に脱出するためにＡさんに必要な支援は何かといろいろ当たっていきました。まずは後見人制度の利用。これはすぐに取り掛かりましたが、決定までに半年から長くて１年近くかかってしまう。では、すぐに取り掛かれる事業は？と調べていくと、『日常生活自立支援事業』というものがあります。この事業は、高齢者や障害のある方で、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理がひとりでは困難な方のお手伝いをするものです。

この事業を利用しようとしましたが、ここで問題が生じました。それは、生活保護受給者に対して、江東区ではこの事業の利用を認めていないというものでした。全国的に見ても、この事業を実施している地区の95.7%が生活保護受給者のサービスを認めているにも関わらず、江東区は認めていない状況でした。こうした問題はＡさんだけではなく、他の相談員からも同じような問題を抱えた方の話を数名耳にしました。このような事実に直面し、どうしたらいいかと区議会議員に相談しました。すると陳情をしてみてはどうか？とのアドバイスをいただきました。

そこで、2023年9月に法人として『日常生活自立支援事業を生活保護受給者が利用可能とすることを求める陳情』を江東区議会に提出。そして同年12月に江東区議会の厚生委員会の区議の皆様一人ひとりに陳情に至るまでの経緯を説明させていただきました。この陳情は、区議会で継続審議された結果、2025年4月から生活保護受給者が金銭管理の支援を受けられる新たな事業として、『被保護者金銭管理支援事業』を実施することが決まりました。日常生活自立支援事業を生活保護受給者が利用できるように…という点から少々違いますが、陳情した成果が形になったと思われます。（ちなみにAさんは、比較的早く保佐人が見つかり、生活を安定させることができました。）

今回の活動を通じて、福祉の現場と行政との距離を近づける活動にもつながったのではないかと感じています。私たちが支援する方々は、障害福祉サービスや制度等の狭間で苦しんでいる方々も多く、そのような方々の声を行政に伝えていくことが必要であり、そのためには、日々の関わりの中で地域課題に気づくことが非常に大切であることを改めて実感しました。

おたがいが
あんしんして
しあわせを手にできる
すてきな町になるよう日々の支援に取り組んでまいります。

地域活動支援センター　ウィル・オアシス
主任相談支援専門員　磯田　渉

2026年 年頭所感 ～理事長よりごあいさつ～

新年明けましておめでとうございます。

2026年は1月3日に米軍のベネズエラ攻撃と大統領拉致という驚きのニュースから始まりました。ウクライナやパレスチナのガザ地区などとともに武力による支配が広がっていく世界に強い懸念を感じます。日本でも億万長者が増える一方で多くの国民が物価高で日々の生活に苦しんでいます。

おあしす福祉会は1983年の設立以来、江東区で精神に障害のある人たちの支援に取り組み、誰もが安心して生活できる社会を目指して活動してきました。東日本大震災やコロナ禍でも人と人が繋がることによって乗り越えられることを実感してきました。

おあしす福祉会は共生社会の実現に向けて、就労支援やグループホーム、地域活動支援センターなどそれぞれの事業所内での支援に留まらず、地域に出て住民の人たちと協力して様々な活動を行い、地域住民と利用者が一緒になって街づくりに取り組み、交流が広がることを目指します。

例を挙げれば、歴史あるお店でも人手不足で事業継続が困難な例もあると聞いています。このお店の仕事を当法人の事業所が請け負って利用者の仕事とする、あるいは利用者の就労先とすれば、お店にとっては働き手が確保でき、利用者にとっては働き場の確保に留まらず地域のお店の事業継続に役立つという役割の実現に繋がります。また、コロナ禍以前に地域活動支援センターで行っていた「夏休みこども工芸教室」のように、地域の児童や高齢者を対象にした様々な取り組みを行えば、地域に貢献するとともに、これまで常に「支援される側」であった当事者が「支援する側」になれます。

おあしす福祉会の今後の持続可能な事業は上記に述べたように、地域で、いろいろな団体と、地域住民とともに、利用者を中心に、様々な活動を通して、誰もが認められ役割を果たし尊重される共生社会を目指していきます。

しかしながら、歯止めがきかない物価高騰と、障害福祉事業所における危機的な職員不足は、障害のある人の暮らしを直撃し、障害福祉サービスの基本報酬の低さと加算制度による成果主義は、事業所の存続を脅かしており、法人経営も厳しくなっています。

ぜひ、利用者、家族、関係諸団体、地域住民の皆様のご協力をお願い申し上げます。

社会福祉法人おあしす福祉会
理事長　平松謙一

おあしすはTOKYO働きやすい福祉の職場宣言達成事業所になりました

福祉業界における人材不足が年々深刻な状況となっている中、東京都は2017年12月から、人材確保に取り組む福祉事業者を支援する取り組みとして「TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言事業」を開始しました。これは5つのカテゴリー、17の項目からなる「働きやすい福祉の職場ガイドライン」に沿って、働きやすい職場づくりに取り組んでいることを宣言し公表することで、人材の確保と定着を支援するものです。具体的には「採用」「人材育成」「仕事の評価と処遇」「ライフ・ワーク・バランス」「職場環境・風土」の5つのカテゴリーで、それぞれ働きやすい取り組みがされているか審査され、それらが基準に達していれば、宣言ができるというものです。

通常はこれらの基準に満たない点を満たしていけるように整備していくことからはじめるのですが、おあしす福祉会は本事業に申し込んだ時点で、ほとんど達成できていると評価をいただき、2025年2月に宣言達成事業所としておあしす福祉会全ての事業所が承認されました。宣言事業所のみに認められるロゴマークや通知書を広く周知することで、おあしすで働きたいと思ってもらえる方を増やしていけるよう、今後 PR を進めていきます。

実際には「働きやすさ」についてはまだまだ改善が必要なことはたくさんありますので、3年後の更新に向けて、さらなる改善を進めていき、今いる職員も、これから働きたいと思ってくださる方も安心して働き続けられる職場にしていきたいと思います。

（おあしす福祉会理事長　平松謙一）

発行人：障害者団体定期刊行物協会 世田谷区祖師谷3−1−17−102
編集人：キープハート／おあしすの事業を支える市民の会 定価100円